

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集について（令和6年9月公表）

- 「新たな学校施設づくりのアイデア集」（平成22年1月、文部科学省）の知見をアップデートするため、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 最終報告」（令和4年3月、学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）や「教育振興基本計画」（令和5年6月閣議決定）において示された考え方を踏まえ、「学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループ」（令和5年1月16日設置、座長：伊藤俊介東京電機大学教授）において新しい時代の学びを実現する学校施設のアイデアとその実現プロセスについて事例を収集。
- 「共創」「生活」「学び」「環境」「安全」の5つの観点から、31都道府県の72校の事例（既存施設約30校の改修・活用改善事例を含む）を基に、89のアイデア、5つのコラムを掲載。併せて、学校施設づくりの現状・課題の把握、及び効果の把握・検証に向けた取組事例についても掲載。

 [ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集](#)



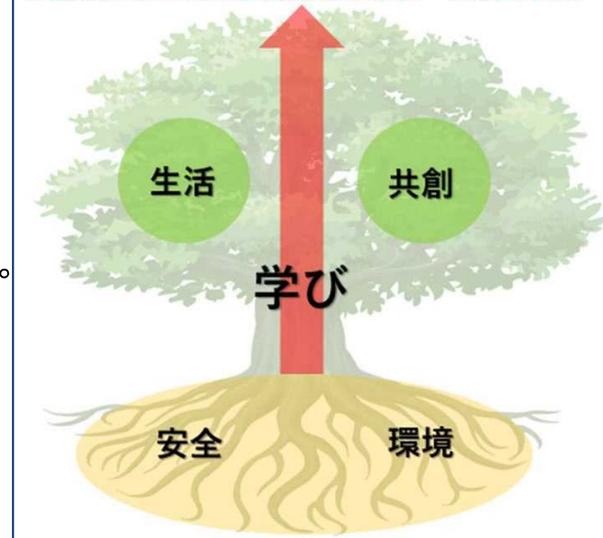
掲載アイデアの特徴

学校における学習環境づくりは、新校舎の整備に収まるものではなく、構想段階から始まり、施設完成後に校舎を使い続ける中でも、完成を迎えることなく取り組まれるもの。施設整備の各ステージに、多様な主体（設置者・設計者・教職員・児童生徒・保護者・地域関係者・研究者・専門家）が参画することで、施設整備の更なる展開が生まれる。

ウェルビーイングの考え方を踏まえ、学校施設において児童生徒や教職員一人一人のウェルビーイングの向上を図る取組とともに、各要素のつながりや連続性を含め、学校という環境全体を、それぞれの生活や活動に調和した場となるように整備するためのアイデアを紹介。

学校施設の現状の課題を把握し、施設づくりの効果を客観的に把握する取組事例を紹介。

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿
（イメージ図）

（「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」（令和4年3月）より）

多様な主体の参画によって生まれる施設整備の展開

構想・計画

設計・施工

使いこなし

カスタマイズ

改修

建て替え

- 構想段階から地域住民や教職員等が設置者・設計者と共創、新校舎で行う学びをデザイン

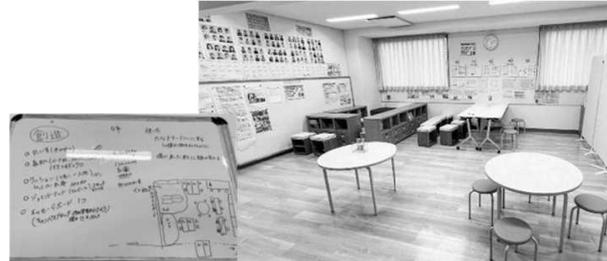


(福島県大熊町立学び舎ゆめの森)



(北海道中頓別町)

- 使用中の校舎の活用方法について、教職員が専門家と共に空間環境を改善



(東京都板橋区立板橋第十小学校)

- 地域住民や教職員が検討に参画し、改修計画に地域開放の視点を反映



(千葉県柏市立土小学校)

多様な主体の参画



(秋田県五城目町立五城目小学校)



(和歌山県串本町立くしもと小学校)

- 使用中の校舎についての問題意識を教職員自身が具体化し、自分たちで空間の改善につなげる



(東京都板橋区立板橋第十小学校)



(東京都八王子市立いずみの森義務教育学校)

- 新校舎の施工に子どもたちも職人と共に参加



(富山県魚津市立星の杜小学校)

- 日頃、校舎を利用している児童生徒や地域住民が、自分たちで既存の教室を改修



(東京学芸大学附属竹早中学校)



(広島県府中市立栗生小学校)

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

共創



写真：(左から)北海道中頓別町、東京学芸大学附属竹早中学校、広島県府中市立栗生小学校、東京都板橋区立板橋第十小学校、北海道安平町立早来学園、富山県魚津市立星の杜小学校

01 <共創を通じて学校を構想する>

地域住民との対話

- ・小規模な町の学校整備の構想に当たり、コミュニティデザインの専門家を迎えつつ、住民参加で「どんな教育をしたいか」を協議。基本計画の検討段階から、子どもも大人も参加するワークショップで開校後の活動の仕組みづくりを続けている。(北海道中頓別町)
- ・町で唯一の小学校の改築を前に、PTAの思いを教育委員会が引き継ぎ、学校づくりを考える対話を重ねた。新校舎等を拠点に、全町民対象の無料講座を開催するなど、地域みんなが集い、学ぶ場として活用。(秋田県五城目町立五城目小学校)

<コラム>組織横断的な基本構想・基本計画の検討
(神奈川県川崎市立新小倉小学校)

02 <自分たちで、教室を変える>

教室の改修プロセスに子どもたちが参加

- ・生徒参加で余裕教室を未来型の学習空間に。(東京学芸大学附属竹早中学校)
- ・長年、交流が続く地元地域の住民や児童が設計・施工に関わり、学校と地域をつなぐ拠点(CSカフェ)を校内に整備。地域と学校のコミュニケーションが増えている。(広島県府中市立栗生小学校)

教職員との対話

- ・普通教室に隣接するオープンスペースの活用方法を、教員が研究者と行うワークショップで検討。家具や掲示物で学習空間を改善。(千葉県千葉市立美浜打瀬小学校、東京都板橋区立板橋第十小学校)
- ・学校司書が校長や教職員等に呼びかけ、書架の配置を見直し図書館全体を「柔軟な学びの場」へとリニューアル。(東京都杉並区立井荻中学校)

子どもたちとの対話 (広島県福山市立想青学園、岐阜県岐阜市立草潤中学校、神奈川県横浜市立日枝小学校)

03 <学校は、地域や社会との共創の場になる>

コミュニティ・スクールの拠点になる場

- ・過去に増築を繰り返した校舎内のエリアを整理、地域交流棟に集約。(千葉県柏市立土小学校)

学校施設を地域住民が利用する

- ・ICTセキュリティで地域開放に伴う学校側の手間と不安を解消し、日中も特別教室を共用。(北海道安平町立早来学園)

ICTで世界とつながる (東京学芸大学附属竹早小学校)

学校内で社会人も仕事ができる

(東京学芸大学附属竹早小学校・竹早中学校、岐阜県岐阜市立草潤中学校)

04 <児童生徒を様々な角度から支える>

部活動の地域移行を施設面でサポート

- ・教育委員会の2課が連携し、地域指導者が休日に音楽室に入れる仕様へセキュリティ回路を変更。(兵庫県加古川市立別府中学校)

専門スタッフの席が職員室にある

(広島県府中市立府中学園、カリタス女子中学高等学校)

05 <地域とのつながりを感じる校舎>

木造校舎を活かした「木育カリキュラム」

- ・小学校を統合し、地元産材を使用した木造校舎を新設。学校空間づくりの経緯の継承を望む設計者の思いから、新校舎では4年生から6年生の授業で地域の職人から校舎のメンテナンスを学ぶ活動が行われている。(富山県魚津市立星の杜小学校)

<コラム>時間帯によるゾーニング

(埼玉県さいたま市(仮称)武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校) 3

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

生活



写真：（左から）福島県大熊町立学び舎ゆめの森、千葉県柏市立田中北小学校、千葉県千葉市立美浜打瀬小学校、広島県府中市立府中第一中学校、京都府京都市立開建高等学校、東京都八王子市立いずみの森義務教育学校

01<心持ちにフィットする、学び心地・居心地の良い場所> 03<普通教室+αのクラスの拠点>

過ごしたい場所を選べる

- ・校舎の固定概念を問い直し、遊びながら学べる空間を構想。大きさも形もバラバラな教室がつながる校舎で、子どもたち自身が学習場所を見つけていく。（福島県大熊町立学び舎ゆめの森）
- ・学びの多様化学校で、校内に多様な居場所の選択肢を設け、生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」を活用。（岐阜県岐阜市立草潤中学校）
- ・廊下等にあるスペースが勉強できる場所に。（広島県福山市立常石ともに学園、富山県富山市立芝園小学校・芝園中学校）

一人にもなれる場所

- ・一人一人が居心地の良い場所を選べる。（千葉県柏市立田中北小学校、広島県福山市立想青学園、岐阜県岐阜市立草潤中学校）
- ・児童が落ち着いて過ごせるスペースづくりを研究者に相談。オープンスペースに小空間を設置。（千葉県千葉市立美浜打瀬小学校）

クラスへ入りづらい子も安心できる場

- ・学校らしく見えない教室を整備。（広島県府中市立府中第一中学校）
- ・教室以外に安心して過ごせる居場所。（東京都八王子市立高尾山学園）

02<ユニバーサルな環境整備>

誰もが利用しやすいトイレ

- ・性別を限定しないトイレや、様々なスタイルのトイレを配置。（奈良県香芝市立香芝東中学校、千葉県柏市立田中北小学校）

明快な動線計画

- ・見通しのよい位置に特別支援教室がある。（千葉県柏市立田中北小学校）

普通教室近くのクラスの拠点となる空間

- ・学習空間・教室とは別に、児童生徒のロッカー・休憩スペースを確保。（北海道安平町立早来学園、京都府京都市立開建高等学校、広島県福山市立想青学園）
- ・普通教室とその隣接スペースの仕切りを工夫しフレキシブルな空間利用を可能に。（京都教育大学附属桃山小学校、千葉県柏市立田中北小学校）

04<過ごしやすい室内環境>

自然の力も取り入れた明るい空間

- （広島県福山市立想青学園、茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校、岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校）

05<教職員・多様な専門職が心地よく働ける環境>

目的に応じて場所を選べる職員室

- （広島県福山市立想青学園、東京都板橋区立板橋第十小学校、広島県府中市立府中中学園、京都府京都市立開建高等学校）

機能別の職員室

- （茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校、ドルトン東京学園中等部・高等部）

教職員のくつろぎ空間

- ・職員室の一角に打ち合わせや休憩のためのスペースを設置。（千葉県柏市立田中北小学校、広島県福山市立想青学園）
- ・校内の一室を産休・育休明けの教職員が搾乳等のために安心して利用できる部屋に改装。（東京都八王子市立いずみの森義務教育学校）

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

学び



写真：(左から)富山県富山市立芝園小学校、千葉県柏市立田中北小学校、愛知県瀬戸市立品野台小学校、京都府京都市立開建高等学校、ドルトン東京学園中学部・高等部、千葉県柏市立田中北小学校

01 <子どもたちが活動空間を広げていく普通教室>

ICTで複線型の授業を実現

- ・15年経過した校舎で、ICTを活用し、個別学習や協働的な学習が非同期的に分散して現れる複線型の授業が展開される。児童は教室からオープンスペースへ活動空間を広げていく。(富山県富山市立芝園小学校)

扉や壁を取り払う

- ・改修時に教室間の壁に扉を設け、学年担任制の下で学級間の連携が取りやすくなっている。(千葉県柏市立土小学校)
- ・普通教室とつながるオープンスペース。(広島県府中市立府中学園、千葉県千葉市立美浜打瀬小学校)

教室の「正面」は一つではない

- ・教室の前面・背面と、廊下側の可動式の壁面もホワイトボードに。(千葉県柏市立土小学校)
- ・教室前方の壁全体をホワイトボードに。(広島県福山市立常石ともに学園)

家具で空間をつくる

- (北海道東川町立東川小学校、愛知県瀬戸市立品野台小学校、千葉県千葉市立美浜打瀬小学校)

02 <学び方をアップデートできる特別教室>

ICTを活かす特別教室

- (東京学芸大学附属竹早小学校、京都府京都市立開建高等学校)

ICTを活用したものづくり

- ・課題解決型学習のアウトプットツールとして、児童生徒が自由に使える動画編集ができるハイスペックPCや3Dプリンターを置く「ラボ」を開設。(埼玉県戸田市立戸田東小学校・戸田東中学校)

03 <様々な対話や発表の形に対応した空間>

主体的な対話のための工夫

- ・教室にサークル対話用のベンチを配置。(広島県福山市立常石ともに学園)
- ・普通教室4つ分の大空間の教室が、小グループでの協働や全体向けの発表といった目的に応じて、形を変える。(京都市立開建高等学校)

発表・表現のステージ

- (ドルトン東京学園中等部・高等部、富山県富山市立芝園小学校・中学校)

04 <あらゆる場所で、学びのきっかけに触れる>

学びの刺激を与える展示

- (広島県福山市立想青学園、ドルトン東京学園中等部・高等部)

<コラム>「感覚にやさしい社会をつくろう」の授業。
(神奈川県川崎市立新城小学校)

05 <知に出会い、探究する>

柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立

- ・学校の中心に据えた図書室を囲むように配置した学習空間。(福島県大熊町立学び舎ゆめの森)
- ・子どもたちの日常動線に配置した図書室。(岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校、千葉県柏市立田中北小学校)
- ・地域住民と交わる場としての図書室。(北海道安平町立早来学園)
- ・図書室の書架配置を見直し、授業もできる広々とした閲覧スペースを確保。(東京都杉並区立井荻中学校)
- ・生徒がニーズに合わせて選択できる図書室内スペース。(ドルトン東京学園中等部・高等部)
- ・図書室の外のデッキを読書テラスに。(千葉県柏市立土小学校)

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

環境



写真：（左から）東京都江東区立有明西学園（2校）、岩手県釜石市立唐丹小学校・唐丹中学校、奈良県生駒市立鹿ノ台中学校、滋賀県守山市立守山中学校、宮城県東松島市立宮野森小学校

01 <校舎の環境性能を教育に関連付けて活用>

ZEBの校舎が教材に

- ・設計者と教職員が新校舎での環境教育を検討、将来の生徒へ引き継ぐ校舎の「取扱説明書」を作成。（岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校）

木材活用の校舎が教材に

- ・地域の森林資源の循環や保全を環境教育に活用。（岡山県真庭市立北房小学校）
- ・校内に木の文化を学ぶ仕掛けを施し、校舎に使われた木材の生産地についても学ぶ。（東京都江東区立有明西学園）

自然共生

- ・土木と建築のすりあわせにより構想・設計された郷土種の植栽。（岩手県釜石市立唐丹小学校・唐丹中学校）
- ・子どもたちの発案でビオトープを整備。（東京都板橋区立蓮根第二小学校、福島大学附属中学校）
- ・校舎に自然素材を活用。（熊本県水俣市立水俣第一中学校、愛媛県伊予市立翠小学校、富山県魚津市立星の杜小学校）

02 <再生可能エネルギー活用>

自然の力を活用

- ・太陽電池の活用。（奈良県生駒市立鹿ノ台中学校）
- ・太陽集熱器の活用。（熊本県和水町立三加和小学校）
- ・風力発電の活用。（東京都品川区立御殿山小学校）
- ・バイオマス熱の活用。（愛媛県伊予市立翠小学校）
- ・雨水の活用。（京都府京都市立八瀬小学校、長崎県長崎市立小櫛小学校）

03 <良好な室内環境>

熱環境

- ・外壁等の断熱化。（奈良県生駒市立鹿ノ台中学校、熊本県水俣市立水俣第一中学校）
- ・自然通風。（滋賀県守山市立守山中学校）

音環境

- ・天井や壁面の十分な吸音。

光環境

- ・明るさが調整可能なLED照明。（岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校）
- ・日除け、自然採光。（滋賀県守山市立守山中学校、宮城県東松島市立宮野森小学校）

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集 概要

安全



写真：（左から）和歌山県串本町立くしもと小学校（予定）、宮城県東松島市立鳴瀬未来中学校、三重県伊勢市立桜浜小学校、東京都足立区立綾瀬小学校、福岡県大牟田市立みなと小学校、石川県七尾市立小丸山小学校

<コラム>防災担当の部署なども巻き込んだゾーニング計画 （和歌山県串本町立くしもと小学校）

01 <災害に対する安全性を確保する>

災害発生直後、円滑に学校施設に避難所を開設する

- ・学校教育の早期再開を見据えた避難者の誘導。（熊本県合志市立合志小学校）
- ・地域住民の避難経路を確保した配置計画。（宮城県石巻市立渡波中学校、宮城県東松島市立鳴瀬未来中学校）
- ・鍵ボックスの設置。（三重県伊勢市立桜浜中学校）

03 <防犯>

開放する際の安全への配慮

（北海道安平町立早来学園、兵庫県加古川市立別府中学校、埼玉県さいたま市（仮称）武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校、福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校）

02 <避難所として必要な機能を備える>

生命確保期・生活確保期に特に重要な機能を備える

- ・断水時でも使用可能なトイレ。（東京都江戸川区立小松川第二中学校、東京都足立区立綾瀬小学校）
- ・電源の確保、情報通信機器やWi-Fiの整備。（宮城県東松島市立鳴瀬未来中学校）
- ・電力やガスの確保。（青森県むつ市立関根中学校、宮城県東松島市立鳴瀬未来中学校、福岡県大牟田市立みなと小学校、福岡県大牟田市立宅峰中学校）
- ・水の確保。（宮城県名取市立閑上小中学校、熊本県熊本市立白山小学校）
- ・避難所の居住スペース。（大阪府箕面市立箕面小学校、山形県高畠町立高畠中学校）
- ・避難所の管理・荷捌きスペース。（石川県七尾市立小丸山小学校、新潟県長岡市立東中学校）

地域との連携

- ・市内小中学校全ての避難所配置図を作成、公表。（群馬県前橋市立桃井小学校）
- ・地域の津波避難拠点。（宮城県名取市立閑上小中学校）

<コラム>令和6年能登半島地震への対応

（石川県七尾市立小丸山小学校、石川県七尾市立山王小学校）